

横山禎徳著「アメリカと比べない日本——世界初の『先進課題』を自力解決する」

ファーストプレス 2006年9月1日刊を読む

デザインとは統合である——「社会システム」を「デザイン」するとは——

1. (1) デザインするということは、「統合」するということである。
  - (2) すなわち、バラバラの性能要求とそれに応えるバラバラの構成要素を、全体と部分とがつじつまが合うようにまとめ上げることだ。
2. (1) たとえば、それが建築分野であれば、建物という統合物になる。
  - (2) しかし、「社会システム・デザイン」は建物のように目で見てその美しさに感動したり、手で触って壁のざらざらした感触を確かめたり、畳の匂いを思い切り吸い込んだりすることはできないタイプの統合である。
  - (3) 見たり触ったり嗅いだりできない「オペレーティング・システム」というソフトウェアをデザインするのである。
3. (1) 「社会システム」はオペレーティング・システムそのものであり、適切な医療であれ、 便利な交通手段であれ、 あるいは質の高い教育であれ、消費者あるいは生活者が求めている価値提供を効果的かつ効率的に行うことが目的である。
  - (2) そのような価値提供ができるように、さまざまな要素を有機的に統合することが「社会システム」を「デザイン」するということである。
  - (3) しかし、困ったことに「統合する」という作業は、こうしたら誰でもできるという方法論を作りにくい。
4. (1) では、方法論のない場合はどうするのか。
  - (2) 作っては壊し、作っては壊しの繰り返し作業によって、全体の整合性と部分の機能を確

かめながら練り上げていくしかない。

(3) そのような繰り返し作業を通して統合的な答えを見つけていくのが、「デザイン」の一般的なアプローチである。

5. (1) この考え方に基づいて、「社会システム・デザイン」の作業の流れをステップとして提示することは可能である。

(2) ここでは「社会システム・デザイン」を5つのステップとして組み立てている。

対象分野における消費者および生活者への価値提供を阻害している「悪循環」を発見し、定義する。

価値提供の効果が増大していく「良循環」を複数「発明」し、最良の案を選択する。

この「良循環」を障害なく回すために必要ないくつかのサブ・システムを抽出する。

各サブ・システムをいくつかのアクション・ステップの流れとして構成する。

個々のアクション・ステップをより具体的にするために、さらにサブ・サブ・システム、サブ・サブ・サブ・システムと分解していく。

6. (1) 「社会システム」は常に変化し続けるダイナミックなプロセスそのものである。このダイナミズムをデザインするのが最も難しいのである。それをどうやってデザインのステップに組み込むかに工夫がいる。

(2) それに対する筆者の答えが、永遠に回り続ける「悪循環」を「発見」したうえで、その状況を転換する「良循環」を「発見」ということなのである。

(3) したがって、5つのステップのうち、最初の2つのステップが最も重要である。この2つのステップが的確であれば「社会システム」の枠組みが決まり、ステップ3で「良循環」がきちんと循環するような力を働かせるサブ・システム群をうまく抽出することができる。

(4) そこまでできれば、あとはサブ・システムをアクション・ステップの流れとして構成し、それをより細かく分解していくことはそれほど難しくはない。

[ コメント ]

日本における「社会システム」の「デザイン」の第一人者である横山氏の最もわかりやすい説明を、本書で知ることができる。大不況下の日本で世界最先端の課題をどう解決して、世界をリードしていくか。横山氏の知見を参考にすべきと私は考える。

- 2009年4月11日林明夫記 -